

## ジモトで座談会 ～市長と明日のまちを考えよう～ 第三地区

### 1 開催日時・場所

- (1) 日 時 令和8年7月1日（水）午後6時30分～午後8時50分
- (2) 場 所 第三地区公民館 大会議室

### 2 テーマ

- (1) 町会の現状と課題について
- (2) 源池小学校について
- (3) 子どもたちと地域のかかわりについて
- (4) イオンモール周辺の交通対策について

### 3 参加者 65名

市長、教育長、こども若者部長、建設部長、交通部長  
意見交換者10名、一般傍聴者（町会長含む）31名、市関係者13名  
地区職員6名

### 4 次第

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地区代表あいさつ
- (4) 意見交換
- (5) まとめ
- (6) お礼のことは
- (7) 閉会



### 5 意見交換

- (1) 町会の現状と課題について

ア「町会運営の現状と課題について」【遠山町会長（県町南町会）】

町内会会員の主な負担と現状について、町内会に入ると規約上町会費を払っていたことになる。その会費と労力により町会は運営されており、例えば、ごみステーションについてですが、その管理や維持も町会会員に担っていただいているにも関わらず、非会員も同様に利用できるタダ乗り状態が起きているのが現状です。

さらに、公民館の維持管理、地域の清掃活動、役員の担当などいろいろな負担があり、その中でも特に役員の担い手ですが、会員数の減少や無関心による手不足、高齢化が進んでいて、役員を選ぶ際は困難を極めます。

町内会活動の価値が薄れてきていることについて、最近は町内会活動の意義や価値が全体的に薄れてきていて、負担は避けたい、役員はやりたくないという気持ちの人が増えています。町内会の存続について、町内会という枠組みがあるのに非会員でも日常生活には困らないという現状には制度的な問題があるように感じてなりません。

まとめとして、行政が町内会への加入を強制するのは難しいのですが、現状の制度の課題を踏まえて何らかの対策をご指導いただければ大変ありがたく、このままでは全国的に増え続けている自治会解散という事態が松本で起こってもおかしくないと感じています。

イ「町会運営の現状と課題について」【森田町会長（東長沢町町会）】

我が東長沢町は第三地区の中で最も高齢化が進んでいる小さな町会です。私が町会長を引き受けた5年前、町会全軒数56軒、全町会人数116名、今年4月現在で、全軒数41軒、総人数101名と、軒数、人数とも減少しており、特にこの3、4年の間10軒程度が空き家状態になっています。また、4月現在、高齢者の65歳以上の高齢化率が50%を超えていて、地区の中では最も高い町会です。

町会の約半分が70歳以上で、年金生活の一人暮らしが多く、町会費は一人暮らしで年間9,000円と、第三地区の中では二番目に高く、簡単に上げることはできません。また、軒数、人数が減るということは、当然、町会の年間予算も減少してくるのが現状で、我が町内のような小さな町会で年間10万円程度の予算減少は他の大きな町会と違い、町会運営に大きな影響があり町会運営に苦慮しているのが現状です。

高齢化や仕事の都合などで町会の役員のなり手はもちろん、各班の代議員、衛生部の当番ですら選出に苦労しているのが現状です。また、子どもの数が、現在、小学生が4人、中学生が3人、あと数年で児童がいなくなり、松本に伝わる伝統行事、青山様、三九郎ができなくなってしまう。我々の世代で伝統行事が途絶えてしまうことが残念でなりません。そこで、小学生が一人になっても、みんなの協力をいただきながらできるだけ続けていこうと役員の中で話し合いもしました。

以上が、我が町会が悩んだり心配している事項ですが、10年後、20年後、どうなってしまうのだろうと心配でなりません。とはいえ、今我々がやらなければならないことは、将来の町会のためしっかりとした基盤を作っておかなければならないと思います。

ウ 「薄川の河川敷管理について」【永春町会長（埋橋町会）】

薄川は筑摩橋の上流と下流で管理が大きく異なっています。下流の町会の負担、具体的には清掃、草刈りが高齢化も含めて課題となっています。上流は公園として常時管理整備している関係で、一年中綺麗な状態になっていますが、下流は町会が自費で草刈りをしており、できても年に1、2回、そういう中で、かなり見た目も運用も変わってきています。埋橋町会ではシルバー人材へここを草刈り依頼して年に8万円、河川敷だけではなく上の方も含めてですけれども、町会負担をしています。

要望としては、筑摩橋の下流河川敷を上流の公園と同様に市で管理整備してほしいと、決して公園にするのが我々の希望ではなくて、こういった町会の負担を軽減する方法を市の方で、何らかの方法を考えてほしいというのが要望です。

また、筑摩橋下流の利用状況ということで、年間を通して散歩道となっています。あと、1月の三九郎の開催場所として、第三地区の5町会、幸町、東長沢町、西埋橋若松町、埋橋で、子ども会あるいは保護者が参加してやっているところです。ただ、今年の初めから林野火災注意報の発令が始まって、ここを常に綺麗にしないといけないということがあって、町会だけの負担ではとてもできないというのが、課題として今年から挙がってきています。

最後になりますけれども、筑摩橋の下流と上流を同様の公園として、指定がもしできなければ、あがたの森公園とか蚕糸公園も全てシルバー人材に一体で委託していると聞いていますので、町会で管理しているわずか100mぐらい、そこを何とか対応していただけないかというのがお願いします。

【永春町会長（埋橋町会）】

スケジュール感は。

【布山建設部長】

スケジュール的には、本年度、県と話を協議をさせていただきまして、許可が出た時点で、現状、ちょっと木が鬱蒼としているところも若干あったりもしたりするものですから、そこもしっかり切って、下の芝も整備できるところは整備して、ベンチとかも置ければ置いていきたいなというふうに考えておりますので、スケジュール的には、本年度から県と協議をして、早めに許可が下りるように働きかけをしていきたいというふうに考えております。

【市長】

遠山さんからは松本市内おおよそこの町会も抱えている重い課題を改めてご指摘をいただきました。改めてごみステーションの管理などが例に挙げられて、タダ乗りといった問題への不公平な実態への指摘等をいただいたのですが、座談会に参加してほぼどこでも出る話で、昨年、住民自治局を挙げて、改めて町会のあり方を皆さんとともに問い直していこうということになっています。その際、本当に町会の皆さんにやっていただかなければならないことは何なのか、行政が今までどこか町会の皆さんに依存しすぎて、それほど必要性のないことも前例があるからということと続けてきたことがないだろうかとといったことについての問い直しをしてきています。

そうした中で、町会への参加に消極的な皆さんが、やはりこれはそこで暮らしている一人ひとりの責任として担わなければいけないことだということを具体的に明確にしていく、そして、その部分であれば私達も参加をするという人を増やしていくということに、最終的には尽きるのかなと思っています。私達のメッセージとして、町会に入らなくてもいいんですよというようなメッセージの出し方になっていないかということは、改めて反省をする部分は反省をして、そこで暮らしている皆さんに労力を提供していただきながら、やはりやっていかなければいけない問題が、具体的にこれとこれとこれといったことを、できる限り私達も関わりながら、町会に現時点で入っていない人たちにそうした声をしっかり届けていくということが、この問題の出発点になるかなと思っています。

そのうえで、森田さんからのご指摘とも重なりますが、町会と一括りにしても、例えば第三地区だけでも比較的軒数の多い町会から軒数の少ない町会があります。ましてや松本市内全域を見渡しますと、人口が多い、軒数が多いところから、東長沢町会よりもさらにもっと小さい単位になっている町会もあります。居住の自由の中で人が住まなくなっていく地域とか町会は、町会の合同、統合ということは、これから必要になってくるとしています。具体的にそれをどういうふうに進めていくかは、地元の皆さんのお考え、ご意見をしっかりと聞きながら、今、松本に480を超える町会がありますが、町会が一つ一つこれからも単独で継続していくということは、難しくなっているところが既に出ていますので、実際、町会の合同の例は既にいくつか出ていますし、そうしたことがマイナスにならないようなアプローチは考えていかなければならないと思っています。

伝統行事のご指摘もありました。伝統行事を守って引き継いでいくためには、まちなかの町会だけでやっていくことには限界がきていると思っています。子どもたちの参加も含めて今までは地元だけでやっていたものをもう少し松本市内で子どもが多くいる地域からも参加をしてもらえるような仕組み作りを私達と地元の皆さんで考えながらしていく必要があるだろうと思っています。

永春さんからいただいた薄川河川敷の話については、改めて今回建設部公園緑地課と現状と取るべき方法を話し合いをしました。担当部局と話をすることで、筑摩橋から金華橋までと実態は変わらない、地元の皆さんで草刈りをやっていただいているとこ

ろは変わらない、なぜ筑摩橋から上流になったのだろうと担当部局に聞いても、どうしてでしょうというぐらいにはっきりしないということわかりましたので、この問題については、上流と同様に公園として指定をして管理をしていくことにしようと確認をしました。最終的には河川管理をする長野県側との協議調整というプロセスを踏んだうえでということになりますけれども、私達としては、筑摩橋から金華橋と同じ状況として、下流の皆さんに今までは草刈り等をお願いしたところを公園としての管理整備に変えていくということで進めていきたいと思っています。

## (2) 源池小学校について

### ア 市立特別支援学校設置に向けて【海野町会連合会長】

源池小学校については、新たに特別支援学校として令和11年4月に開校予定となっています。来年から寿台支援学校分教室として、1、2年生各6名ずつの12名がまず源池小学校の方に就学になるようです。地域での理解を深めるため、地区の行事等に参加していただくことや交流事業の開催等、地域との関わりについて一緒に考えていきたいと思っています。

こういった本質的な取り組みではないのですが、施設についての検討をお願いしたいと考えています。施設と申しまして駐車場です。令和9年度からの工事期間中も含めて、旧幸町保育園の敷地を源池小学校関係の駐車場として使用する予定であるようですが、旧幸町保育園は源池小学校からは結構距離があります。距離的には500mほどで、歩くと5、6分はかかります。周辺道路も道路が狭く、道もかなり入り組んでいます。

旧幸町保育園自体も東側の道は、道幅は4mほどで、すれ違いもよほど注意しないとできない状態です。現在は、西側の旧幸町保育園の方はフェンスが境になっていて、フェンスを西側の方に広げて、道路の幅をできれば広げていただきたいと思います。ただ問題になるのは、角に三峯神社の祠がありまして、それから大きな電柱がありますので、簡単に広げることはできないのかなと思っています。

源池小学校周辺には民間の駐車場も結構あると思うのですが、そういった民間の駐車場を使うことは料金的なことでも難しいのではないかなと思っているのですが、源池小学校の実際の駐車場を使用する方、近隣住民のことも考慮して駐車場の設定を考えていただきたいと思います。

### イ 放課後児童クラブ設置について【子育て支援ねっこだっこ代表 伊藤さん】

私は令和6年11月に行われた多事争論会においてあがた児童センターの狭隘化の課題について発言させていただきました。多事争論会の後に、臥雲市長と当時の教育長であがた児童センターを視察してくださり、源池小学校内への放課後児童クラブの開設を検討してくださっていると聞いております。大変感謝申し上げます。

一点目として、源池小学校内への放課後児童クラブ設置の検討状況について、今どこまで進んでいるのかということをお聞きしたいです。

多事討論会のときに、私はプロジェクトチームを作ってほしいと要望しました。源池小学校に支援学校を併設するというお話も聞いていますが、支援学校については学校教育課、放課後児童クラブについてはこども育成課と、管轄が違うのは理解しています。しかし、昼間学校で過ごしている子ども、放課後に児童クラブで過ごしている子どもも、同じ子どもなのです。本気で源池小学校を子どもたちにとって良い環境に整えようと考えていらっしゃるのなら、課を越えて連携していくことが大切だと思います。誰がその調整役をし、チームのリーダーとなって連携していくのかを明確にさせていただきたいと考えています。

二点目は、放課後児童クラブの施設整備の考え方についてお聞きしたいです。

具体的には、定員は何人を想定しているのか、施設の広さはどのくらいか、どんな間取りなのか等です。空き教室さえあれば放課後児童クラブが成り立つわけではなく、放課後児童クラブ専用の水道やトイレ、専用室、休養室、職員室、倉庫等は必要です。休養室は具合の悪い子どもが利用する他に、発達障害のお子さんが年々増えている中でクールダウンをする場所としても必要です。私が以前働いていた田川児童センターでは、支援の必要なお子さんを担当させていただいていました。こちらの児童センターもとても狭いのですが、昨年休養室が新たに設けられました。当時担当していたお子さんは現在中学3年生になっていますが、先日センターを訪れた際に、僕の頃にもこういう部屋があったらよかったのにと話していたそうです。

それから、設備に関してですが、実際に今までも建物が完成してしまってからロッカーがランドセルの入らない大きさだったとか、デザインに凝りすぎたために鍵をかけづらい玄関ノブができてしまったという事例を見えています。何年も不自由な思いをしながら使い続けて、結局また税金を使って作り直すということが起こっているのです。このようなことが今後起こらないためにも、設計が出来上がる前に、現在既に学校内で放課後児童クラブを運営されている現場の先生方の意見を聞いていただきたいと思います。

三点目は運営の仕方です。

全国的に放課後児童クラブは、小学校の空き教室を利用する流れになっているようですが、多くのクラブで学校との連携が難しいという問題が起こっているようです。自治体によっては、教育委員会が運営しているところもあるようですが、松本市としてはどのような体制で運営していくのでしょうか。もしどこかの自治体でうまく運営されているところがあれば視察に行き、やはり現在既に放課後児童クラブを運営しているクラブと小学校側の意見も聞くなどして、より良い運営の方法を考えていただきたいと思います。

#### 【市長】

旧幸町保育園の敷地を駐車場に使用することについては、今年中に建物を除却して更地にします。その際、右側の道路の部分の道路幅を広げるという対応を取ろうということになりましたので、駐車場のところを少し削るということで、道路幅を広げる対応を取るようにします。その際、祠があって、これをどこかに移設をということで、旧幸町保育園を更地にしますので、その一角に地域の皆さんの祠は置く場所を設ければいいのではないかと話をしているところです。

#### 【曾根原教育長】

源池小学校に作る市立の特別支援学校についてですが、日本でもなかなか見たことのない夢のような学校を作りたいと思っています。どういうことかということ、普通の学校と特別支援学校が同じ敷地内にあるというのは、須坂にあるのですけれども、職員室が別々であったり、要するに近くにあるというだけの状況があります。ここは職員室も一緒にして、教育課程のカリキュラムも時間割を合わせてできるだけ一緒にしたい。これをやっている実践は日本でもなかなかないので、それに挑戦しようということになっていますので、それには歴史と伝統のある源池小学校、それも文教地区であがたの森もあり、高校生との関わりも作りやすい、様々な点から配慮して源池小学校にさせていただきましたので、そういう学校にしたいと考えています。

そういうふうに私達は目指しているので、地区行事への参加とか交流事業の開催については、ぜひともさせていただければありがたいので、来年から寿台支援学校の分

教室という形でやって、ぜひ地域の皆さんと一緒に新たな源池小学校を作らせていただければありがたいと思っていますので、よろしくお願いします。

駐車場について私から一つだけ言うと、長野市の長野支援学校も職員駐車場は1 km 近く離れていて、職員はそこにとめて歩いて行っていて、それに比べれば遥かに近いので、幸町のここの駐車場を使うのは基本的に職員がとめるようにして、先生方に納得いただけるように私が説明していきたいと思っています。

#### 【布山建設部長】

幸町の旧保育園の跡地の駐車場の件ですけれども、南側の部分クランクになっているところは宅地造成の関係で5 mほどの道路になっていまして、北側の部分が4 mちょっとの幅員になっていまして、保育園の面しているところは4 m切るぐらいの幅員ということもありますので、北側、南側の前後の幅員も踏まえ、駐車場部分をどれぐらいの幅員にすればいいかとかというのを、町会長さんとも打ち合わせをしながら、地元の方たちとも話をしながら、前後の道の間隔もありますので、どれぐらい広げられるのかということも調整していきたいということ、それから祠の関係、それと電柱の関係もあろうかと思しますので、北側の部分については変則なクランクみたいな形になっていますので、広げることによって電柱がどれぐらい支障になってしまうのかも踏まえて、検討、協議をさせていただければと思いますのでよろしくお願いします。

#### 【市長】

源池小学校だけではないのですが、今私達は学校や公民館や福祉ひろば、児童センター、松本市の様々な公共施設を、これから30年、50年、もっと先まで見据えたときに、人口の減少局面に入っていきますので、そういう中でどう公共施設を持続可能な状況としていくのかという非常に大きな命題を今年本格的な新たな計画の議論を行っています。そこで一つ旗印にしているのが、地域の学校を軸とした公共施設の再編が大事ではないかという考え方です。全てを学校にもっていくわけではありませんけれども、小学校や中学校の校舎あるいは敷地やそうしたものを他の機能、他の施設が担っていた役割を段階を踏んで、そこに集約して学校を多機能化していこうということを大きな軸として今考えていこうとしています。例えば、今回の源池小学校の敷地内に放課後児童クラブをもっていくのも、私はそうした学校の多機能化、将来の公共施設のマネジメントをしていくうえでの一つの事例になるのではないかなと思っています。

そのことをどうして申し上げたかと言いますと、先ほどある意味懸念を持っておられる、管轄が違ふと役所というところは、結局なかなか意思疎通が十分にいかなくていったい連携はうまくいくのかと、責任の所在が不明確で、いつまでたっても決定すべきことは決定できないことにならないかというご指摘だったと思いますが、今回、源池小学校内の放課後児童クラブという一具体事例ではありますが、私の中では、これから松本市全体の公共施設のあり方を問い直していく、その軸としての学校の多機能化というその先鞭になるものが、今回の源池小学校の中に新たに放課後児童クラブをきちんと設置することですので、担当課長レベルの話ではないと思ってこの問題を取り組んでいこうと思っています。今日来ている曾根原教育長と、市長部局では私の代理になります伊佐治副市長、この二人が責任を明確にできる立場として放課後児童クラブをどうしていくのかということについては取り組んでもらうように二人には指示をしました。

三つ目のご指摘で、学校内の問題を教育委員会との連携をどうしていくのかと、これがどこでも問題になっているというご指摘ありましたが、教育委員会制度がある以

上は、教育委員会は市長部局とは一定の独立性を持っていますけれども、副市長と教育長という立場で、この問題を連携というよりは一緒になって取り組んでいくということでそれぞれの担当課長が組織の管轄の違いを意識しなくて済むような取り組みにしていきたいと思っています。

【中田こども若者部長】

想定人数としましては、80名程度と考えています。児童が安全かつ適切に過ごすために定められた面積基準によって広さや間取りを決めていくわけですが、現在あがた児童センターで放課後児童クラブに登録されている児童の皆さんの人数が、60名から70名程度となっています。例年そのような状況ですので、校内へ開設されて利用率が多少上昇すること考えますと、80名程度ではないかということで、現在のところは想定しているところです。

広さ、間取りにつきましては、今の段階ではクラブ室2室130㎡を基本として調整を進めているところですが、状況等も含めて今後変動する可能性もあるのですけれども、今のところこういった形で進んでいる状況です。

そして、専用の設備等ということで、先ほども水道やトイレ、休養室の話とかもありましたし、単に児童を預かる場所ではなく、放課後の生活の場であることを考えますと、事務室ももちろんですが、静養室も含め、施設通用口や共用部のトイレ手洗い場、保護者送迎用駐車場、体育館、校庭等への活動のスペースもとれるような形で、日々学校教育課とこども育成課で打ち合わせをしているところですが、せっかく作る施設になりますので、ぜひ利用しやすい、あと何年経ってもここが良くなかったねというご意見をいただかないような形で取り組めればいいのかと考えているところです。

【曾根原教育長】

縦割りが起きてしまったときの解消方法は、それぞれのトップが話し合ってお互いの方向性を決めて指示をそれぞれ出していくとうまくいくのです。それで、私は伊佐治副市長とは週1回または2週間に1回常に打ち合わせ会を設けています。この話題ももう十分承知していますので、お互い話しながら進めていきたいと思っています。施設をどういうふうにするかというのは主に我々で、運用をどうやるというのがこども若者部になりますけれども、現段階のものでは静養スペースとか職員の執務スペースとか収納スペースも用意してというふうに進めています。

あと、みんなで共有していいものを作ってもらいたいというご意見がありました。校舎は、まず南側に源池の森の近くに南校舎の改修、特別支援学校を作るのですが、その後北校舎を令和11年から行いますけれども、それ前までにきちんという原案なのですからどうですかと、ワークショップをやったり、意見をもらったりしながら、これならいいねというものに作り上げていきますので、その際はぜひご協力をよろしくお願いします。

(3) 子どもたちと地域のかかわりについて

ア 多世代交流について

【第三地区まちづくり協議会幹事長・ボランティア部会長 熊谷さん】

当地区の特徴としては、様々な事業に未就学児が親子で参加してくれていることです。ボランティア部会が協力しているふれあい健康教室やみつばちかふえ、いくつかの町会で開催しているサロンなどにも参加してくれています。子どもたちや子育て世代の方とのふれあいの時間は事業に参加している高齢者や協力している部会員にとっ

て癒しの楽しい時間になっており、嬉しいことです。

次に、ボランティア部会の新しい活動について紹介します。昨年度から多世代交流による地域活性化子育て応援事業として、市の地域チャレンジ応援事業補助金を活用し、あがた児童センター秋まつりのかき氷コーナー、ミニＳＬコーナーを担当し、会場設営にも参加しました。

今年度も協力することとし、これまで民生委員の皆さんが担当していたバルーンアートコーナーも担当することになっています。昨年１２月の民生委員の交代で働きながら民生委員を務めている方が多くなりました。民生委員には全員部会に加入していただいているが、役職だから必ず参加しなければいけないということではなく、協力していただける方に参加していただき、臨機応変にと考えています。

地域チャレンジ応援事業補助金を活用し、子どもたちとの交流を通じて、私達も元気をもらい、活動の場も広がり、部会の活性化とも繋がったと感じています。

イ 松本に愛着を持つ子どもを育てるには

【第三地区まちづくり協議会副会長 降旗さん】

第三地区まちづくり協議会では、イオンモール開業前から松本の製糸業を始めとする近代産業発展の歴史を伝える活動を続けています。子どもたちに地域を学んでもらうために、地域学習の学習書として、歴史マップや歴史冊子、アニメーションを作り今も活用しています。もう１０年以上清水中学校１年生と毎年まち歩き学習を行っています。しかし、松本の製糸業の歴史はここから世界にジャパニーズシルクが開発されて広がっていったにも関わらず、ほとんどの市民が知らないのが現状です。新しい博物館にもその歴史がわかるものは今ありません。もっと松本として広くそれをアピールするべきだと思っています。

また、源池小学校では毎年田んぼ作りのお手伝いをしています。子どもたちが食料を作るという貴重な体験をしてくれています。昨年、清水小学校からは蚕について知りたいという子どもたちの要望が出ました。蚕を見たことがない子どもたちがほとんどなので、その要望に応じて蚕を持って蚕の話をしに行きました。子どもたちは初めて蚕を育て、いい経験ができたと言っていました。

地域学習などのコミュニティスクールは、松本に愛着を持つ機会として大変重要だと考えています。しかし、現在の松本版コミュニティスクールでは、先生方がちょっとこんなことやりたいんだけどという気軽に相談できる場が少なく、依頼が来ても、コーディネーターである公民館長のところで人材をマッチングする苦労もあります。先日、筑摩小学校の国型のコーディネーターさんから頼まれ、清水小学校と同じように蚕の話をしてきました。公民館研究集會にコーディネーターさんが来てくださって私を知ったことで、先生からの依頼に応じて私のところに連絡が来ました。その際に松本市として子どもに関わる人材バンク的なものがあればいいという私の提案に、近隣の学校で講師を務めている人材を共有できるように連携をしたらどうかという話が出まして、私も共感しました。子どもたちにより多くの経験値をつけてあげるためにも、人材バンク的なシステムを近隣の学校だけでもいいので考えていくといいと思います。

また、ＰＴＡの解散や部活動の地域移行など子どもたちを取り巻く環境が変化してきている中、ＰＴＡがなくなったから町会の育成会も抜けてしまうなど子どもたちが地域と関わる機会が減ってきています。松本ならではの三九郎や青山様・ぼんぼんなどの伝統行事も存続が厳しくなっています。第三地区では、８月のあがた森夏まつりに青山様・ぼんぼんのデモンストレーションを２０年以上続けています。まちづくり協議会では、今週末に青山様・ぼんぼんの学習会を開催します。歴史を知りたい

という要望があって始めたのですが、１２月には三九郎の由来を学びながら繭玉作り講習会を開催しています。イオンモールの繭玉材料コーナーには作り方のレシピを置いてもらうなどの活動を続けています。そうしたら三九郎にそれを作って持ってきてくださっている親子が増えました。このような伝統行事は子どもたちが地域の多世代と交流をする機会となり、松本に愛着を持つ良い機会となると考えています。伝統行事を継続するためには、これからも地域の大人が子どもたちと一緒にあって伝統行事の歴史を知って楽しんで一緒に取り組んでいくなどの工夫が必要だと思っています。

ウ 松本で子育てをして感じていること【子育て世代 加藤さん】

私は四ツ谷東町会で戸建を持って生活をしています。千葉県から移住して今年で６年目になります。サッカーの松本山雅が好きで移住したというのが簡単なきっかけとなります。入っていましたが、町会へは関心は全くなく、最初のお話でちょっと耳が痛いなという思いがありました。そんな私がどうしてこうしてここで発言させていただくほど地域と関わることになったのかというお話したいと思います。

きっかけは子どもが生まれ、昼寝をしないというところでした。つどいの広場がやっていない午後の時間帯どう過ごそうと悩んでいたときに、回覧板で回ってきて気になっていた町会のサロンひまわり、みつばちかふえへ足を運んでみました。行ってみるとかなりの人生の先輩ばかり、これは場違いかと思ったのですが、皆さんよく来たねと歓迎してくれました。子どもも抱っこしてくれ、親が子どもと離れてほっと一息つける時間でもあります。かわいいねと言ってくれ、何度か行くと共通の人がいます。それは支援員さんや役員さんです。とても安心しました。昼寝をしなかったから行くという場所から温かさを感じて行きたい場所へ変化していきます。他のママも誘ったら興味を持ってくれ、今では複数の子育て世代がサロンひまわりに参加しています。子育てにおいては多様な年代がいることが子どもにも私にも大切であると感じました。

当時の困り事といえば、唯一お昼ご飯を食べる場所でした。昨年、初の町会の班長が回ってきて、無事務め上げ、年度終わりの会議で、若者の公民館の利用促進という文字を見ました。サロンひまわりで降旗さんに相談すると、話を進めてくれました。機械音痴の私ですが、インスタを使って幅広く呼びかけ、お昼ご飯を集まって食べませんかとか、夕方休憩がてらお話しませんかの会を四ツ谷東公民館で現在開いています。

松本市は二人目保育料無償や子ども医療費助成、支援クーポン、居場所づくりなど子育てしやすい環境整備に重点を置いてくれており、とても嬉しいと思っています。あまり困っていることはないです。とはいえ、せっかく市長に会える機会、何かないかとママ達と話したところ、全ての子育て世代が安心して暮らせるよう、休日に雨でも無料で過ごせる場所の整備、子ども食堂や地域交流の支援が出ました。子どもを産み育てていきたいと更に思える松本市を目指していただきたいと思っています。

【市長】

あがた児童センターの秋まつりは、なかなかこういう取り組みをやろうと思ってもできない地区や町会も多い中で、未就学児の親子が参加をして、かき氷やミニＳＬといった催しができているというのは、本当に貴重なことだと思いました。松本の中の文教地区、生活利便性も高いという第三地区の非常に大きなメリットだと感じます。働きながら民生委員を務めている人たちに参加のハードルを下げて、協力していただける方には協力していただければかなりの距離感とかアプローチの仕方というのは非常に大切ですけれども、なかなかできない部分もある中で、敷居が下がって、多世代

の交流ということに繋がっているんだなと改めて思ったところです。何とか少しでも少子化に歯止めをかけて若い世代の人たちが家庭を築きたいと思う、それを実現する様々な後押しを行政も地域の皆さんとも一緒になってやっていかなくてはいけないと改めて思ったところです。

今井五介を冊子でも取り上げて地域の学習を子どもたちと一緒にすることは、なかなか他の地区でやろうと思ってもできないかなと思うぐらいに先進的に取り組まれてきていると思います。そのぐらい第三地区には文化的蓄積があって、子どもたちに伝統的な文化や地域の歴史を知ってもらえれば、愛着が湧き、地元で仕事をしよう、地元で家庭を築こうという気持ちを持つ子どもが増えるでしょうし、世界に羽ばたいていくんだという子どもたちにとっても、常に自分のふるさととはこうだったということに目を向け続けることに繋がるだろうと思いました。

子どもに関わる人材バンクというお話も、中学校部活動の地域展開を行っていくプロセスと相当重なる部分だと思いました。部活動の地域展開は、今までの中学校の部活ではなかなかやりたくてもやれなかったような種目だったり、分野だったりに門戸を広げるというプラスの面もあると思っています。特に文化系は、地域の人たちが提供できる学びの機会、趣味的な活動を面白いと思う子どもたちとの関わりというのが中学校の部活の地域展開の先に生まれてくるものとして期待をしているところです。松本市内のもっと範囲の広い中で、インターネット上で閲覧できるようなサイトがあって、そこを通じてマッチングが成立するようなものが、学校側、地域側、子どもたちの中で生まれてきてほしいと改めて思ったところです。

加藤さんからは千葉から移住して6年というお話、人生の先輩と無料で接点を持てるということは、潜在的にはそうしたことを求めている、あることをあまり知らない状況はあるだろうと思います。それは、冒頭の町会に加入するしないとか、町会に関連して行われている催しとか行事とかを地域に住んでいる人たちが知っているかということに課題がある話だと思ってお聞きしました。知っていれば、そこだったら参加したいのと思うところがあって、最初はその部分だけでも参加しませんかというようなアプローチが町会の皆さんからもあって、これだけお世話になっていい時間を与えてもらっているのであれば、少し頑張って労力を提供しますよという関係に繋がっていけばいいな、加藤さんのお話はそうやって繋がっていったんだなお聞きをしました。多世代が接点を持つことは、お互いにとって自分に欠けているもの、足りないもの、必要なものを相手からいただける機会に繋がることだと思いますし、加藤さんの経験をいろんな人たちにいろいろなチャネルを通じて知らしめていただけるとハッピーな思いをする方が増えてくるのではないかと思います。

そのうえで、休日に雨でも過ごせる施設、これは市長への手紙で一番たくさんいただきます。東京周辺で過ごしていた人が一番感じるのは、大きな素晴らしい公園はあるけれども、冬は寒いし夏は暑いし、屋内で広々としていろいろな遊びができる場所は何とかできませんかというのは、公共だけで作ることはなかなかハードル高いんですが、ずっと私が何とかしなくてはいけないと思っている宿題だと思っています。

#### 【曽根原教育長】

国がコミュニティスクール制度を運用してきたときに、もっと地域と学校がともに子どもたちを育てようというものを出示してきました。そのときに長野県の教育委員会では国型のコミュニティスクールを導入するのではなく、信州型コミュニティスクールという別の方策をとったんです。学校の状況を鑑みると、地域の方にもっと入っていただいてコーディネーターもいた方がいいだろうということで、松本市の方向性としては、国型の方向性を進めていこうと見据えています。問題点はコーディネートし

てくれる方がなかなか見つからないということです。コーディネーターがどういう方がいるのかを見つけないが進めていきたいと考えている、これが大きな方向性です。

人材バンクというお話がありました。各学校には様々に関わってくださっている方がいます。筑摩小学校のコーディネーターが降旗さんと知り合って繋がったということなので、各学校で関わっている方を出し合うだけでも、それを共有するだけでもできるかなと思っていますが、様々な事情あると思いますので、どんなふうに共有できるかということは考えていきたいと思います。

#### (4) イオンモール周辺の交通対策について

【第三地区まちづくり協議会副会長 降旗さん】

イオンモールが開業して丸8年が経ってパルコや井上も撤退したことにより、第三地区の周辺道路は、交通量、歩行者、自転車数が以前より増えてきています。

中町通りから日の出町に続く道路は、観光客も含め歩行者や自転車でかなり混雑していますが、日の出町通りは狭くて、歩行者と自転車の安全が確保できていません。第三地区では、イオンモール開業前から一緒に市の職員と歩いたりしながら電柱地中化など多方面に渡って対策のお願いをしてきました。しかし、形になったものはなく早急に歩行者と自転車の安全確保をするための対策をお願いしたいと思います。

イオンモールが開店してから、中町とイオンを結ぶ松本のまちの動線として本当に重要になってきています。中町まではすごく綺麗に整備されているのですが、そこから先は全く整備がされていない状態なので、これから松本の歩いて楽しむ回遊性とか、景観の面でも歩道の部分をわかりやすく改良していくとか、拡幅は無理でも工夫が必要かなと思っています。今、外国人観光客も結構イオンモールまで来られるので工夫をしていただきたいと思っています。

イオンモールから蚕糸公園に抜ける道路ですが、この部分だけ特に狭く、高校生の自転車がすごく多いです。自転車がたまっていたりすると車同士のすれ違いも難しく歩行者の安全が確保できていません。

次に、市道2058号線についてです。やまびこ道路やあがたの森の前を通る松本塩尻線ですが、南北に走る道路は常に渋滞が起っています。特にあがたの森から清水銀座交差点、この場所までは一段と狭くなっていて、自転車と歩行者がいると車のすれ違いも厳しい状態です。高校生の通学路としての利用も多いことから歩行者や自転車が安全に通れるよう改良できないかと思っています。何とか歩道だけでも作れないか検討をお願いしたいと思っています。

次に、南北道路の渋滞については、塩尻上田方面に向かう通過車両のまちなかへの流入を減らして南北道路の渋滞緩和をしていくのが一番の方法だと思っていますので出川浅間線のバイパスの早期建設をお願いしたいと思っています。

#### 【市長】

日の出町通りは、電柱地中化あるいは拡幅といったもの、現時点のここまで来た段階では、これを実行することは、極めて困難ということをご理解をいただきたいと思っています。そういう中で、日の出町の路側帯の人や自転車が通る部分を車道と明確に視覚的に区別をする意味で着色をする方法が現実的に考えられると思います。その際に景観に配慮した色とか塗り方とか、考え方を整理したうえで、地元の話し合いをしていって実行できればと思っています。

そして、日の出町通りのその先の蚕糸公園までの部分は、これは一方通行とかにできないのかといったら、なかなかそれは難しいでしょうという現場の声でした。もう一つ、高校生が駅からこちら側ではなくて、駅前から大通りを、自転車レーンを走っ

ていくことの方が今は安全性も高いはずですが、高校の校長先生や学校側とあの通りをできるだけ自転車で行かないような指導をお願いできませんかというようなことは、現実的にできること、唯一そのぐらいしか蚕糸公園までのところでは改善策が見当たらないというのが、正直なところです。

そして、2058号線の今度は南北の方も同じ課題を抱えているわけですが、一番は出川浅間線、これが本来、通過交通を一番外側でバイパスとして走らせる道路ということで、松本市としてはずっとこれをそのための都市計画道路として整備を進めているのですが、当初予定していたタイミングより3年程度遅れてしまいました。

一番は、薄川を渡ったところで山の子保育園がこの道路の用地にぶつかっていて、我々の当初の目算より3年程度時間が必要だということになりまして、新しい橋を架けて、今の山の子保育園のところから、まずは北小松工区を整備し、そして惣社の交差点付近までを整備する。具体的にいつと申し上げるのは、建設部長に任せようと思いますが、この重要性は非常に認識をしていて、これが整備できると、2058線の問題もだいぶ緩和をされると思いますので、もうしばらくお待ちくださいということになります。

#### 【柳澤交通部長】

日の出町につきましてはかねてから大変狭い通りですので、ここの通行に関してはどうやって安全性を高めていくかというようなことを地域の皆さんと検討してきた経過があります。平成18年当時は、本当に一般的な道路だったのですけれども、側溝を入れ替えたり、路側帯の部分をグレーな形で引きまして、少しでも安全に通れるようなということで検討してきた経過です。

電柱の地中化ということも検討はしたのですが、歩道もなかったりする中で物理的に難しかったわけですが、では具体的に今何ができるかということできまして、やはり平成18年から既にもう20年が経っているものですから、現地を見ますと路側帯に引いた部分もだいぶ劣化してきておりますので、そういったところを塗り直したりをする中で、少しでも歩く部分、自転車で通る部分を明確化していくようなことを地元の皆さんと協議しながら検討していけたらいいのかなと思っています。

その先の道も大変狭いという中で、自転車を少し別へ回すということも考えていかなければいけないということなのですが、現状、学校側では生徒たちにはできるだけ広い道を通して通学するようにというご指導をいただいているということだそうですが、あがたの森通りにつきましては、中央二丁目からずっと歩行者レーンも自転車レーンもきちんと明瞭化できていますので、以前に比べるとだいぶ道路としての整備ができていますから、そちらにできるだけ誘導できないかというようなことを改めて学校ともしっかり協議をしながらやっていきたいと思っています。

また、警察とも協力をしながら、学校とのコミュニケーションを図っていききたいと思いますので、自転車の交通ルールを周知徹底することによって南北の市道2058号線の狭いところも安全性を高めていこうというところです。

いずれにしても、通りも建物が連担していたり、狭い街区の中で拡幅して歩道までつけていくことにつきましては、すぐに対応というのはなかなか難しい部分です。

#### 【布山建設部長】

出川浅間線につきましては、皆さんと同様私どもも早期に供用開始したいという思いは強く感じています。用地の関係が難航してまして、3年から4年ほど若干伸びているという状況でありますけれども、1万㎡ほど用地の買収をさせていただかなければいけない状況にあり、今の進捗状況としましては、43%ほど用地の買収をさせ

ていただいている状況です。まず南小松のT字のところから新しい橋をつけていかななくてはならないものですから、その橋の新設工事を来年以降やって、その先線の道路改良の方もやっていって、早い段階で私ども供用開始ができるようにと思っておりますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。

## 5 まとめ【市長】

今日は皆さんから建設的なご意見ご提言をいただきました。それぞれ地区においてこれをこの場で提起をすれば実現可能なのではないかというお話をだいぶいただくようになってきました。その指摘や提言がなければ、我々自身が気づきを持てていないとか本当はできることをやらないでここまで来てしまったということでもありますので、ぜひこれからも地区とか地域、町会の皆さんの問題意識を課題解決に繋げていきたいと思っています。



そして、その一番の窓口には町会の皆さんがなっていて、地域づくりセンター長がそれをしっかりと受け止めて、私や各責任者になる部長に繋ぐ、この回路がしっかりしている、そういう組織に松本市役所はしたいと思っています。

町会に入る、町会に対して地元の問題を持ち込むと、それが役所を動かすんだと、地元の問題が前向きな方向に進むんだということになることが、町会、住民自治組織の価値とか役割というものを高めて、自分たちが責任を分かち合っても関与をして行政を動かすということに繋がっていけば、町会も問題の解決の糸口にもなるのかなと思っています。一朝一夕にいく話ではないことはわかったうえでのことです。が、地域の問題を地域の皆さんと解決をしていく、改善をしていくということが続けていきたいと思っています。

## 6 お礼のことば【大出町会連合会副会長】

本日の座談会では、多岐にわたる課題について意見が交わされ、私達町会からお伝えした地域の課題や要望に対し、現状や今後の取り組みについて、一つ一つ丁寧かつ誠意あるご説明を賜り、大変心強く感じています。

今の時代に合った地域コミュニティを作ることがより大切になってきており、町会運営は大きな転換点を迎えてきているのではないかとそれも過言ではないと思っています。今こそ時代に即した対策を打たなければ町会運営はその機能を失い、行き詰まるのではないかとこの危機感を少し感じています。

そんな中、行政の方々には、以前から常に親身になって、我々が抱えている課題に向き合い、寄り添い、地域づくりセンターを中心に町会の負担減少など様々な課題解決に向けてご尽力いただいております。心より感謝申し上げます。

行政の方々がこのように支援体制や仕組みを整えていただいている今こそ、まず現場の我々が地域の声を大切にしながら、12町会連携して知恵を絞り、汗をかくて行動して、安心して暮らせるまちづくり、顔の見える関係づくりに努めていかなければならないと強く自覚しているところです。

本日の意見交換を一過性のものとするのではなく、今後も行政と地域が継続的に情報共有と対話を重ね、時代に合った町会運営に転換することで、持続可能な、10年後も続く地域づくりに取り組んでいきたいと思っています。